

地域の
かわら版

まるやま

創刊号

丸山地域づくり30名でスタート



8月10日(火)有志30名が集まり、丸山地域づくりを考える会がスタートしました。

地域づくりを考える会とは、協働のまちづくりの一環で、地域づくり協議会という組織の設立に向けた話し合いの場です。

当日は、白浜や和田の協議会設立にご尽力いただいた千葉工業大学の鎌田教授から地域づくりのポイントなどのお話しを聞きました。

次に、3つのグループにわかれ、丸山のいいところや課題などを話し合い、結果を模造紙にまとめました。

今後は、良いところを伸ばすには？悪いところを改善するにはどんなことが出来るか？など、話し合いを進め、地域のために出来るところから活動を始めていきたいと考えています。参加者は随時募集しています。お気軽にご参加ください。

丸山の現状

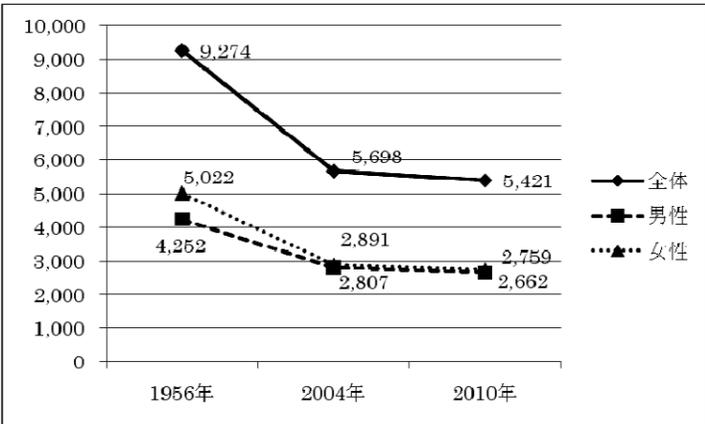


地域の皆さんに丸山の現状をお知らせする「丸山の現状」第1弾は『人口』です。

旧丸山町が誕生した1956年(昭和31年)には、9千人を超える人口がいた丸山も南房総市に合併する前の2004年には約5千7百人、その後の5年間で、2百人を超える人口が減少しています。

今は、日本全国で人口が減少していく時代です。

こんな時代だからこそ、私たちは、改めて地域を見つめなおすことから地道に活動を始めていきます。



丸山の「ココ」が好き



この創刊号が皆様のお手元へ届く頃は、稲が黄金色に変わり始めています。

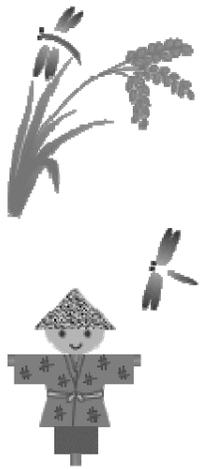
「丸山の印象は？」と聞かれた私共支援員は「山々のすそ野に広がる青々とした田んぼの風景が素晴らしい」と答えております。

田植えの後、風になびいている緑の稲波を眺めていると心やすらぎ身も心も緑色に引きずりこまれてしまいうそうです。

梅雨時は、嶺岡山系に深い雨雲がたちこめ、薄いブルーグレーの中に稲の新緑だけが鮮明に浮き出され、必死に雨を受けとめている稲の美しさに心をうたれます。

晴れた日は、稲の緑が葉先に行くにしたがって黄緑になり、先端は太陽のひかりの中へとけ込みいちめん金色に輝く自然の恵みへと変わります。

「白米は白米にあらず、すなはち命なり」という言葉があります。この田んぼと山々の風景をいつまでも残していきたいものです。



編集後記

皆さん、こんにちは。暑い毎日が続きますね。いかがお過ごしでしょうか。

第1号の“かわらばん”いかがでしたか？ このかわらばんでは、地域づくりのことだけでなく、丸山の昔・今・これからを皆

さんにお伝えする企画などができればと思っています。また、皆さんから、本誌に相応しい名称を募集したいと考えています。詳しくは、準備が整いましたらお知らせしていきますね。

さて、私達「地域づくり支援員」

は、NPO法人千葉自然学校から派遣され、市職員の方と一緒に仕事をしております。

丸山について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っていますので、今後とも、どうか温かい目で見守って頂ければ幸いです。

▼地域のかかわら版 まるやま 創刊号
発行元：丸山地域づくりを考える会
〒299-2592 南房総市岩糸 2489 (丸山支所内)
TEL: 0470-46-4171 FAX: 0470-46-3991 E-mail: mma@canvas.ocn.ne.jp
URL: http://civil.mboso-etoko.jp/group/detail.asp?id=84

